

職員History④ ～勤続25年を迎えられた職員編（令和4年度 岡崎賞受賞職員）～

第141号に続き、ここではびわこ学園で勤続25年を超えて働いておられる皆さんに綴っていただきました。



平成9年に、副園長として赴任して25年になるが、最初に滋賀医大の研修医の時に、びわこ学園で当直や研修をするようになってからの関わりは、すでに38年になるうとしている。

最初、大津市長等の旧第一びわこ学園に赴任した

時、加湿器の水蒸気の向こうから現れる利用者の声や姿と歌声、外で舞い散る桜の花びらのコントラストに、息づくいのちとでもいうべき不思議な感覚を覚えた。そこに岡崎先生、高谷先生という師がいた。

また、当時の旧第二びわこ学園では、僕の当直を楽しみにしてくれる利用者がいた。そうした方々に支えられて何とか今日まできた。感謝とともに、これからも、皆さんと一緒に、悩み、苦しみながらも、そこに確かに在る「いのちの輝き」を感じあいながら生きていきたいという思いでいっぱいである。

（口分田政夫・施設長（医師）・26年目）  
びわこ学園医療福祉センター草津



平成8年の8月に8年勤めた病院を辞め、しばらくゆっくりしようと思っていた矢先、「びわこに看護師さんが不足して1か月だけでも手伝ってほしい」と懇願され、軽い気持ちで見学に訪れたのが25年前、平成8年の11月に入職しました。

当時は1か月だけの手伝いのつもりで来たのに、25年もいるなんて。それも草津だけで。そして部長までなってしまう。なんということでしょう。自分自身がビックリです。最初は泣いてばかりだったのに、すっかり生き字引のようになってしまいました。びわこ学園は楽しいことも辛いことも沢山あったけど、自分を成長させてくれた大事な場所だと思っています。

（逸見聡子・看護部長・26年目）  
びわこ学園医療福祉センター草津



このたびはこのよう  
な賞を頂きまして本当にありがとうございます。看護師として自分にできる精一杯の積み重ねが、こうやって岡崎賞という形となった事で一つの良い意味での節目になったのかな、と感慨深い思いで

いっぱいです。求人広告を見て何となく就職して25年です。人生何がどうなるのかわからないものです。第二びわこ学園の温かく自由な雰囲気がいつも私を包んでくれていたこと、夜遅くまで先輩や後輩、同僚と利用者さんの事を夢中で語り合ったことを時折懐かしく思い出します。それほど利用者さんは魅力的で、無力な私を受け入れて下さる大きな存在でした。皆さまに導かれようやくここまでやってこられました。決して私だけの力ではたどり着く事はできなかったと思います。皆様方には感謝してもしきれません。これからもより一層気持ちを引き締めて頑張っ参ります。本当にありがとうございました。

（中村麻子・看護課長・26年目）  
びわこ学園医療福祉センター野洲



永年勤続25年。先輩たちが通った地点に立つことができました。温かく、懲りずに私を見守り、助けてくださりありがとうございます。

1994年冬、薄暗い第二びわこ学園の会議室での山崎園長（当時）の面接。人生の分岐点だったと思います。それから

25年間、異なる職種の先輩に導かれ、施設、訪問、在宅、地域、通所、様々なフィールドで働く機会を頂きました。

沢山の利用者・家族とスタッフに出会い、共に悩み、喜びました。時に「自分のしたい仕事でない」と腐った時期もありましたが。今となっては正反対の位置にある仕事もつながっていると云えます。“すべては自分の成長の栄養”ですね。

また、休職制度をつくって頂けたことで2003年から2年間、青年海外協力隊としてベトナム社会主義共和国のボランティア活動に取り組みました。改めてお礼を申し上げます。赴任先では、「夜明け前の子どもたち」の世界にタイムスリップした経験ができ、生涯の財産、仕事への向き合い方の土台になっています。

「内藤君。行ったら行った先で、する仕事はあるんだよ！」かつての上司の言葉が支えとなっています。等身大でできることをコツコツやっていきたいと思っています。

（内藤誠二・理学療法士（リハビリ課長）・26年目）  
びわこ学園医療福祉センター草津

25年前の春。現在のさんさん通所に就職しました。それまでは医療現場での勤務だったので、最初は戸惑うことも多かったのが正直な気持ちでした。

しかし、通所で働くうちに地域で暮らしておられる方の“医療を支えるという大きな使命”を、といえ少し大げさな言い方かもしれませんが、それほど私にとってはやりがいのある仕事に出会えたのではないかと、学園での就職を勧めて下さった元職員の方に感謝しています。

25年は長いようで短い。この25年の間、いつもどんな時でも出会いを大事にしたい、そして出会った方の気持ちを大切に、寄り添えられたらなあと思ってこの仕事を続けてきました。今まで出会った利用者さん、ご家族、スタッフの方に支えられていたから、こうして続けることができたのだと感謝しています。

これからも出会いを通して多くの事を経験し、学び、楽しむことを、体力の続く限り出来るように一日一日を大事に過ごしていきたいと思います。



(高田麻希子・看護師・26年目)  
びわこ学園障害者支援センター・さんさん



19歳で第一びわこ学園に就職して26年目となりました。最初は深く考えず軽い気持ちで入りました。利用者さんが食事を取りに来てくれるたびに挨拶をしているうちに、私自身に会いに来てくださる利用者さんが増えていきました。そして、会話をすることが日課になりました。しかし、何を話されているのか解らず病棟職員やご家族に話を聞き、もっと理解していきたいと思うきっかけになりました。印象に残っている利用者さんの言葉があり、一人の利用者さんにお寿司を提供した時でした。「特別に出してもらい有難いが、皆と同じ食べ物で皆と笑顔の中で食事がしたい」と言われました。私たちに改めて考えさせられる一言でした。これまで支えて下さった利用者さんやご家族の方々、他部署の職員に恩返し出来るよう初心忘れず日々精進していきたいと思えます。

(大田 忍・調理師・26年目)  
びわこ学園医療福祉センター野洲



保育の専門学校を卒業した私に声をかけてくださったのは当時の第二びわこ学園の職員さんでした。東棟の所属になり緊張する間もなく日々上司、先輩方から教わりながら毎日を精一杯過ごしていたのを鮮明に思い出されます。

まだ利用者の方も若く、三上小学校での運動会、湖水浴、お泊り外出、学園祭といった行事もあり、利用者さんと同じように楽しんでいました。東棟の利用者さんの生活は大家族のようなイメージでアットホームな感じでした。あちらこちらで笑い声やけんかの声が出て、その奥では何人かが集まり藤棚でおやつを食べているといった一見バラバラに見える光景も実は全員が一つにまとまっているんだよと利用者さん、職員皆が思っていて過ごしていたと今でも思います。その頃を一日一日を精一杯楽しく過ごせた事を思い出しながら、これからも精一杯向き合っていきたいと思いました。

25年もの間、関わってくださったびわこ学園の皆様ありがとうございました。

(長谷川秀樹・生活支援員・26年目)  
びわこ学園医療福祉センター野洲

私がびわこ学園に初めて行ったのは、学生時代の施設見学でした。当時は第二びわこ学園と言われていて、なかなかのカルチャーショックを感じたのは今でも覚えています。施設実習先を選択する際も、「生半可な気持ちで行くべきところではない」と先生が言っていたこともあり、もう来ることはないだろうなあ…そう思っていたのですが、その後、なんと自らびわこ学園に就職することに!!でも、その時も「長くは勤められないだろうなあ。とりあえず3年は頑張ろう」そう思って働きだしました。その3年後に、知的障害児者生活支援センターが設立されることになり、私に異動辞令が!!「じゃあ、あと3年頑張ってみるかあ」そんな積み重ねで、今に至ります。今もどこかで「あと3年」と思っていますが、利用者、ご家族との出会いや一緒に仕事をする仲間との出会いが、私の「3年」を延長させています!



(谷 由佳・通所課課長・26年目)  
びわこ学園障害者支援センター・ピアーズ